

令和 3 年 6 月 13 日現在

機関番号：33801

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00335

研究課題名(和文) 日本占領下華北における日本語文学の様相に関する基礎的・発展的研究

研究課題名(英文) A Basic and Developmental Study on the Aspects of Japanese Literature in North China under Japanese Occupation

研究代表者

戸塚 麻子 (TOTSUKA, Asako)

常葉大学・教育学部・教授

研究者番号：10711450

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、主に日中戦争期に、北京・天津等の華北地域で展開した日本語文学の実態を究明すべく、基礎資料の収集と整備を行うものである。もっとも基礎的かつ重要な資料である『東亜新報』の前半については、既に文芸・文化記事を中心に撮影・筆記を完了している。本研究では引き続き後半の保存を行った。また、総合雑誌『北支那』『京津事情』や、華北全域に社員をもつ華北交通や華北電電の社員会雑誌『興亜』『北電』の雑誌を収集し、目録作成と解題執筆を行った。また、文芸誌を収集し、『燕京文学』『春聯』(北京発行)、『基地』『大陸短歌』『錨地』(青島)、『廟』(済南)等について細目を作成し、解題を執筆して公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『東亜新報』は1939年7月に北京で創刊され1945年まで発行されていた当時唯一の現地発行の日本語新聞であり、日本統治下の政治・経済・歴史・文芸・文化等さまざまな分野を研究する上で、極めて基礎的かつ重要な資料である。この資料の調査をはじめに行った意義は大きい。また、本研究では、従来知られることのなかった雑誌を複数発掘し、その雑誌の概要または詳細を公表した。今後の外地日本語メディアの研究に資するものと考えられる。例えば、北京の俳誌『春聯』や、青島の文芸誌及び文化コミュニティについての研究は、先行する研究がなく、意義があると思われる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to collect and maintain basic materials in order to investigate the actual state of Japanese language literature that developed in the North China region, mainly in Beijing and Tianjin, during the Sino-Japanese War. The first half of the "Toa Shimpō" (first published in July 1939, the only Japanese language newspaper in Beijing at that time), which is the most basic and important material, has already been photographed and transcribed, focusing on literary and cultural articles. In this study, we continued to preserve the second half. We also collected, catalogued and wrote the titles of the general magazines "Kita Shina" and "Keishin Jijou", and the employee association magazines of national policy companies "Koa" and "Hokuden". In addition, we collected literary magazines and wrote and published detailed articles on "Enkei Bungaku", "Shunren" (published in Beijing), "Kichi", "Tairiku Tanka", "Byochi" (Qingdao), and "Byo" (Jinan).

研究分野：日本近現代文学

キーワード：日本占領下華北 日中戦争 外地メディア 日本語文学 国策 東亜新報 京津事情 『興亜』(華北交通社員会)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年の外地文学研究の隆盛によって、満洲・朝鮮・台湾等の日本語文学の実態は仔細に検討され、資料整備も進んだ。また、上海周辺地域においても現在精力的に研究が進められている。しかしながら、同様に大規模な日本人コミュニティが存在した北京を中心とする日本語メディアについては、それら地域に比べ、資料整備が遅れているという現状があった。特に、1939年7月に北京で創刊され1945年まで発行されていた当時唯一の現地発行の日本語新聞『東亜新報』は、日本統治下の政治・経済・歴史・文芸・文化等さまざまな分野を研究する上で、極めて基礎的かつ重要な資料であるにもかかわらず、長い間ほぼ手つかずのまま置かれてきた。

そうした状況を改善すべく、申請者は基盤研究(C)に応募し、『東亜新報』1939年7月から1942年半ばまでの撮影を研究分担者とともにいった。また、それら資料を元にして研究分担者と研究会を重ね、成果を論文として公表した。(「日本占領下北京における日本語文学の様相に関する基礎的研究 「東亜新報」を中心」課題番号15K02283、研究代表者：戸塚麻子、2015年度-2017年度)

本研究では、それらの研究の継続として、『東亜新報』後半の写真撮影と資料整理を進めることとした。また、前の研究では北京を中心としていたが、北京よりさきに日本人コミュニティが形成されていた天津や、他地域についても可能な限り資料を収集、分析を行い、当時の華北地域における日本語メディアについてより広い視点から考察を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究は、主に日中戦争期に、北京・天津を中心とする華北地域で展開した日本語文学の実態を究明すべく、基礎資料の収集と整備及び現地邦人文学者・文学団体の動向調査を試みるものである。当時北京で発行されていた唯一の日本語新聞『東亜新報』の前半については、既に文芸・文化記事を中心に撮影・筆記を完了した。本研究では引き続き、後半の保存を行う。また、北京在住の著名な文化人・文学者が多数執筆している総合雑誌『北支那』『京津事情』等の雑誌を収集し、目録作成を行う。

以上の基礎作業を行った上で、『東亜新報』『北支那』、文芸誌『燕京文学』等を合わせて分析し、文学団体・文芸メディア・人的ネットワーク等の様態の検証を行う。

3. 研究の方法

(1)本研究課題の主要な作業のひとつは、北京で発行されていた『東亜新報』(1939-1945)後半部の撮影・保存である。『東亜新報』は日本国内の所蔵が極めて少なく、中国でも現段階の調査では、上海図書館以外に所蔵が確認できない。そのため、夏・冬の2回、1週間~10日程度上海に出張して作業を行う。撮影は分担者と協働して行い、とじ込みの関係で撮影不可能な部分やカスレが甚だしい箇所等は、筆記して記録を行う。

(2)『東亜新報』に掲載された「寄贈図書」「図書紹介」「書評」をすべて確認し(欠号を除く)、現地で発行されていた雑誌の一覧を作成する。その上で、日本、中国、アメリカ等の図書館・資料館における所蔵を調査し、できる限り収集する。

特に北京の中国国家図書館が多くの雑誌を所有しているため、出張して資料収集を行う。

(3)(2)によって収集した資料を整理し、細目の作成を行う。また、解題や論文執筆を行う。

4. 研究成果

(1)『東亜新報』

前の研究課題では、既に神谷昌史「『東亜新報』研究のためのおぼえがき 創刊期を中心に」(『滋賀文教短期大学紀要』第18号、2016年)及び戸塚麻子「創刊期『東亜新報』(一九三九)の文芸・文化記事について 日本占領下北京の日本語新聞」(『常葉大学教育学部紀要』第38号、2017年)の2つの論文を公表した。

本研究課題では、さらにそれを発展させ、戸塚麻子・神谷昌史「『東亜新報』の編集局・論説委員について 『東亜新報』研究のためのおぼえがき」(『常葉大学教育学部紀要』第38号、2019年)及び神谷昌史「『東亜新報』編集局の人々 付『東亜新報』「論説」題目一覧(1941年1月1日-1942年12月31日)」(『滋賀文教短期大学紀要』第21号、2019年)を公表した。また、金沢文圃閣より2019年から2020年にかけて、神谷昌史編『『東亜新報』関係資料集 日本占領下華北の日本語新聞とジャーナリスト』第1巻、第2巻、別巻1、別巻2の計4冊が刊行された。うち別巻2は、「『東亜新報』「論説」題目一覧(1939年7月3日-1945年8月17日)」であり、本科研で複製した全ての号の「論説」(『東亜新報』では朝刊1面の社説を「論説」と

いうタイトルで掲載しており、ここではその社説を指す)を一覧した。また、私費で購入した日本敗戦前後の原紙の分も併せて記した。

(2)総合雑誌

天津の総合雑誌『北支那』について、竹松良明大阪学院教授(当時)、秦剛北京外国語大学教授と分担して細目作成を行った。戸塚が解題を執筆し、『戦前期中国関係雑誌細目集覧』(三人社、2018年、共著書)として刊行した。

さらに、天津で発行されていた『京津ガイド』(後継誌『京津事情』『日華文化』)を収集し、細目の作成と論文執筆を行った。戸塚麻子「日中戦争下天津の総合雑誌『京津事情』について 付・細目(1)」(『常葉大学教育学部紀要』2020年)及び、戸塚麻子「日中戦争下天津の文学『京津事情』文芸記事について 付・細目(2)」(『常葉大学教育学部紀要』2021年)。細目については、1942年までは完成しており、残りの約一年分を作成し、『戦前期中国関係雑誌細目集覧』の続篇に収録する予定である。

また、北京で発行されていた総合雑誌2誌については、次の研究課題で取り組みたいと考えている。

(3)社員会雑誌

本研究課題を進める過程で、国策会社の社員会雑誌の持つ重要性に気づいた。特に、多くの社員を雇用していた華北交通の社員会発行の『興亜』である。また、華北交通ほど規模は大きくないが華北電電俱樂部が発行していた『北電』である。両者は華北のいたるところに散らばる社員が投稿する雑誌であり、社員の転勤・移動や、華北各所のネットワークなども知ることができる資料だといえる。(2)の総合雑誌や(4)で後述する文芸雑誌群では、居住地などが必ずしも記されているわけではなく、ネットワークや人の流れが(俳誌等を除いて)見えてきにくい。また、『興亜』『北電』では、長篇小説や長文の評論・エッセイ等は掲載されていないものの、編集に文芸関係の人物が関わっており、詩・短歌・俳句等では見るべきものがある。

本研究課題では、『興亜』創刊号から第24号までの細目を作成し、解題を付して公表した(神谷昌史・戸塚麻子「『興亜』(華北交通社員会)解題・細目(1)」(『滋賀文教短期大学紀要』第22号、2020年)、神谷昌史「『興亜』(華北交通社員会)解題・細目(二)」(『滋賀文教短期大学紀要』第23号、2021年))。残る25号~63号についても作成し、解題を付して出版する予定である。

また、『北電』についても細目を作成し、戸塚麻子「『北電』(華北電電俱樂部/北電興亜会)細目」(『論潮』第13号、2020年)として公表した。この作目を作成した時点では、創刊号~第2巻、第5巻~第6巻(欠号を含む)しか入手していなかったが、その後古書店にて、この間を埋める第3巻・第4巻を購入することができた。今後細目を作成するとともに、解題を付して公表する予定である。

(4)文芸雑誌

既に前の研究課題において、北京の総合文芸誌『燕京文学』の細目を作成、解題を付して公表した。本研究課題では、細目・解題を大幅に改稿し、前掲の『戦前期中国関係雑誌細目集覧』(三人社、2018年)に収録した。

『燕京文学』は当時北京で唯一の日本語文芸誌であったこと、中園英助や飯塚朗等が同人として活躍していたこと等から、従来から一部の研究者には注目され、研究成果も出されてきた。本研究課題では、その他のほとんど存在すら知られず、まったく注目されてこなかった文芸誌を収集することに注力した。方法としては、本報告書「3.研究の方法」(2)に記した、『東亜新報』掲載の「寄贈図書」「図書紹介」「書評」を手掛かりとし、さらに収集した別の雑誌の同様の欄に掲載された雑誌を悉皆的に調査していくというものである。

その一つが俳誌『春聯』である。『東亜新報』社長の徳光衣城(俳号、以如子)が強い影響力を持っていた雑誌で、東亜新報研究という観点からも重要だと考えられる。成果としては、戸塚麻子「日本占領下北京の俳句雑誌『春聯』について 付・『春聯』目次(一九四二年三月、一九四四年一月-一九四五年二月)」(『常葉大学外国語学部紀要』第35号、2019年)がある。その後古書店で入手した1号を加えて改稿し、『戦前期中国関係雑誌細目集覧』の続篇に収録する予定である。

また、青島で発行していた俳誌『基地』、歌誌『大陸短歌』、詩誌『錨地』の三誌に、済南の『廟』を加えて、戸塚麻子「日中戦争下における青島の日本語文芸誌 付・『基地』『大陸短歌』『錨地』『廟』細目」(『常葉大学外国語学部紀要』第36号、2020年)として公表した。管見の限りでは、青島における文芸誌や文化コミュニティについて論じた論文として初のものである。

続く研究課題では、未着手の資料や欠号の収集を行うとともに、整理した資料の公開に力を入れて行きたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 戸塚麻子	4. 巻 37
2. 論文標題 坂井徳三のみる中国の農民・苦力・職人	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 常葉大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 29 - 38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18894/00002154	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 戸塚麻子	4. 巻 41
2. 論文標題 日中戦争下天津の文学 『京津事情』文芸記事について 付・細目(2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 常葉大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18894/00002132	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 戸塚麻子	4. 巻 13
2. 論文標題 『北電』（華北電電倶楽部 / 北電興亜会）細目	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 論潮	6. 最初と最後の頁 99 - 140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 神谷昌史	4. 巻 23
2. 論文標題 『興亜』（華北交通社員会）解題・細目（二）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 滋賀文教短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 戸塚麻子	4. 巻 236
2. 論文標題 二つの祖国 生島治郎の上海ものをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 167-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚麻子	4. 巻 40
2. 論文標題 日中戦争下天津の総合雑誌『京津事情』について 付・細目(一)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 常葉大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18894/00001967	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戸塚麻子	4. 巻 36
2. 論文標題 日中戦争下における青島の日本語文芸誌 付・『基地』『大陸短歌』『錨地』『廟』細目	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 常葉大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18894/00001987	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神谷昌史・戸塚麻子	4. 巻 22
2. 論文標題 『興亜』(華北交通社員会)解題・細目(一)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 滋賀文教短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32125/00000051	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戸塚麻子, 神谷昌史	4. 巻 39
2. 論文標題 『東亜新報』の編集局・論説委員について 『東亜新報』研究のためのおぼえがき	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 常葉大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18894/00001731	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戸塚麻子	4. 巻 35
2. 論文標題 日本占領下北京の俳句雑誌『春聯』について 付・『春聯』目次(一九四二年三月、一九四四年一月 一九四五年二月)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 常葉大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18894/00001748	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戸塚麻子	4. 巻 11
2. 論文標題 『北支那』細目(一九四二年一月 - 一九四四年六月)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 論潮	6. 最初と最後の頁 69-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神谷昌史	4. 巻 21
2. 論文標題 『東亜新報』編集局の人々 付『東亜新報』「論説」題目一覧(1941年1月1日 1942年12月31日)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 滋賀文教短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32125/00000030	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 神谷昌史
2. 発表標題 『東亜新報』について 日中戦争期「北支」におけるジャーナリストのネットワーク
3. 学会等名 大東文化大学国際比較政治研究所2020年度第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 戸塚麻子
2. 発表標題 日本人作家がみた中国 文学から知る世界
3. 学会等名 常葉大学公開講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸塚麻子
2. 発表標題 『北支那』について 戦時中国における華北の日本語雑誌
3. 学会等名 上海社会科学院歴史研究所現代史研究会・日本上海市研究会主催「中日学者中日関係史交流会」、於上海社会科学院歴史研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸塚麻子
2. 発表標題 日本占領下華北の日本語メディア
3. 学会等名 5 科研連合研究集会「東アジアにおける日本語資料 外地文化研究の現在」、於奈良大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神谷昌史
2. 発表標題 日本占領下華北の日本語新聞『東亜新報』について
3. 学会等名 5 科研連合研究集会「東アジアにおける日本語資料 外地文化研究の現在」、於奈良大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 戸塚麻子
2. 発表標題 日中戦争下における北京・天津の日本語新聞と雑誌について
3. 学会等名 常葉大学教育学部初等教育課程学内学会、於常葉大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 戸塚麻子
2. 発表標題 生島治郎のハードボイルド小説にみる 上海
3. 学会等名 日本上海史研究会8月例会「戦後上海の「体験」 - 人びとの模索・移動・記憶」、於大阪学院大学
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 神谷昌史編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 166
3. 書名 『東亜新報』関係資料集 日本占領下華北の日本語新聞とジャーナリスト 第二巻	

1. 著者名 神谷昌史・戸塚麻子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 53
3. 書名 『東亜新報』関係資料集 日本占領下華北の日本語新聞とジャーナリスト 別巻2 『東亜新報』 「論説」 題目一覧 (1939年7月3日-1945年8月17日)	

1. 著者名 神谷昌史編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 220
3. 書名 『東亜新報』関係資料集 日本占領下華北の日本語新聞とジャーナリスト 第一巻	

1. 著者名 神谷昌史編・解題	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 244
3. 書名 『東亜新報』関係資料集 日本占領下華北の日本語新聞とジャーナリスト 別巻	

1. 著者名 戦前期中国関係雑誌細目集覧刊行会編 (代表・竹松良明)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 463
3. 書名 戦前期中国関係雑誌細目集覧	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	神谷 昌史 (KAMIYA Masashi) (50623873)	滋賀文教短期大学・国文学科・教授(移行) (44203)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関